



# YOROZU 通信 NEWS

Vol. 06

米村 和夫

ニュース 発行 ; 2020 7月号

1、300 問答の建築よろず相談

## 海辺の町に住んでみて

私が湘南の鵠沼海岸と言う海辺の街に引っ越したのは、2011年3月でした。言うまでもなく、東日本大震災直後の時でした。「そんな時期に海辺の街に引っ越しなど不謹慎だ」と言う世間的な空気は感じており、事務所移転の案内状の投函はしばらく自粛しました。(地震より前に実行していた引っ越しの諸手続きなのでお許しください。)

津波が来たらどうするの?と言う質問を数知れず受けました。「何処に住んでもリスクはありますから」と答えています。数百年に一度のリスクにネガティブになるより、富士山や江ノ島を見ながら日常生活をする方がポジティブに生活出来ると考えます。

こちらに来て、日常生活の習慣で変わった事の一つが、毎日空を見る習慣が生まれたことです。都内住んでいた時では朝、空を見て1日が始まる事などありませんでした。

台風後の窓ガラスの汚れ様は悲惨です。砂が窓ガラスに吹き付けられます。ステンレスも錆びます。車を車検に出せば車体下部から錆が必ず発見されます。洗濯物も潮風でカラッと乾かない。などの自然現象は数々ありますが、よく言えば自然と向き合って生活しているということです。

今まで活動拠点としていたエリアから移動するのは勇気のいる事です。

実際に移動してみていろいろな発見や壁にぶつかりましたので紹介します。

「湘南」と言う地名の絶対的ブランド力の大きさです。

ホームページでも当初「湘南 設計事務所」などと検索すると自分の事務所が100位付近の検索結果だった時は唖然としました。

「湘南 家づくり」となると悲劇的な結果が出ます。湘南というキーワードで頭角を出すことは至難の技であることを実感することになります。多くの事務所が手間と暇とお金を払ってWEB対策をしている現状で、手作りサイトに対処するレベルではなかったのです。

湘南での住宅建築事情で特筆すべきは、多くの工務店の設計力、デザイン力が高い事です。偏見ある言い方をすれば、デザインと標準的性能が望みならば都内の設計事務所に依頼する必要はなく、湘南スタイルという様式(?)が既にできているのです。

湘南ライフをプレゼンテーションする雑誌やフリーペーパーはいくつか発行されていますが、設計&施工一貫体制の地場工務店で広告枠はガッチリ固められています。

専門設計事務所の存在感は乏しいです。メディア側も、資金力のないのが設計事務所、広告出してもらうなら、取材するなら工務店と言う図式があるようです。

湘南の中でも圧倒的な存在感があるのが鎌倉市です。私も最初は鎌倉への引っ越しを希望していましたが、縁なく断念しました。更に狭いエリアに有力な設計事務所が群雄割拠しているのが特長です。

鎌倉の沿岸部(材木座、由比ヶ浜、長谷、稲村ヶ崎、七里ヶ浜)は、家賃相場がとて高いこと、設計事務所としても使う予定と言うと大家が難色を示すことが多いです。

反対にどの物件も「ペット可」であり、ペット不可とすると賃貸物件の価値を著しく下げてしまうという認識があるようです。

村意識が強い鎌倉と比べ、歴史的背景、文化的背景にも乏しいのが藤沢市です。鎌倉では見ることができない「新しい街」としてファミリー層に人気があり年々人口が増え続けています。

2020年版の「SUUMO 住民に愛されている街ランキング 関東版」で、片瀬江ノ島が1位、鵠沼が8位、鵠沼海岸が10位に入っています。そんな海辺の街、鵠沼海岸に住んでみて感じたこと、知ったことを取り止めなく報告しました。